

使用料などの見直し検討結果

4月1日から使用料を改定します

市の施設やサービスは税金で運営しているため、適正な使用料の設定が必要です。物価変動などの維持管理費の増加や公平性を確保し、持続可能な運営に向けた見直しを進めます。

《問合せ》財政課 ☎21-9014

見直しの基本的な考え方

施設のランニングコストから計算した原価を、現行の使用料でどの程度賄えているかを検証し、近隣自治体の類似施設の使用料とも比較することで改定の必要性を判断しました。

見直し検討結果

手数料および雑入はおおむね適正な水準であるため据え置きを基本とし、一部改訂を行いました。使用料については、使用料金だけでなく適正な運用となるように、時間区分の見直しや冷暖房加算も含めた料金への変更を行いました。新料金は2026年4月1日から施行します。

見直し検討結果の詳細は、市のホームページをご覧ください。3月末までに使用許可を受ける場合の料金の適用や施設の個別の料金表については、各施設の所管課に問い合わせてください。

主な見直し施設

- 文化会館など
出石多目的ホール、但東市民センター
- その他の貸館施設
図書館本館、出石市民ホール、竹野川湊館
日本・モンゴル民族博物館
但東シルク温泉やまびこ
- 温泉施設
神鍋温泉ゆとろぎ など



市ホームページ▲

2月

とよおか生きもの歳時記

～ウメに〇〇～

皆さんに豊岡の自然を身近に感じてもらうため、豊岡らしい季節の言葉を紹介します。

春を告げる鳥のさえずりが聴こえてきます。

雪に埋まる冬の但馬では、ツバキやサザンカの赤や白の花が目を楽しませてくれます。虫たちがいなくなる冬でも、野花の花粉を運んでくれる別の生きものがいます。鳥です。冬の花に小鳥が寄ってきているのを見かけた人もいると思います。ヒヨドリなどの少し大きな鳥もやってきます。彼らの目的は花の蜜。エサの少ない季節、冬の花の蜜は鳥たちの大事な栄養源です。

早春の風物詩

春の足音が聞こえはじめるころ、ウメの花が咲きだします。ウメの花にウグイス色をした小鳥が蜜を求めやってきます。やがて「ホーホケキョ」の声が聞こえだし、ウメにはウグイス色の小鳥。ウメとウグイスは、早春の風物詩として古くから日本人の心にすり込まれて

きました。花札の柄にもなっています。

小鳥の正体

写真は、ウメの後に咲く彼岸桜の花の蜜を吸いにきたウグイス色の小鳥です。ウメの花でも同じ光景が見られます。この鳥、実はウグイスではありません。目のまわりに白いふちどりが特徴のメジロです。

自然界でよく見られる光景としては、“ウメにウグイス”ではなく、“ウメにメジロ”が正解なのです。

(写真・文 NPO法人コウノトリ市民研究所 高橋 信)



▲彼岸桜の花の蜜を吸っているメジロ